

福島第一原発事故から6年

- 動画記録とともに富岡町の避難者と語り合う -

避難区域とはどのようなところで、また避難者はどのような暮らしをしてきたのでしょうか？
そして、避難指示の解除によって全ては解決するのでしょうか？

2011年3月に起きた東京電力福島第一原発事故により、福島県では最大で16万人が避難を強いられました。しかし現在、避難区域は次々と解除され、電力を消費してきた私たちが実態を十分に知る機会のないまま、問題は収束されようとしています。

報告では、今年4月に避難解除された富岡町の避難者とともに、動画記録を用いて避難の過去、現在、そして将来を一緒に考えていきます。

日時：2017年7月7日(金) 17:10~18:40(予定) ※開場：16:40

申込不要・入場無料(定員120名)一般参加可能

会場：明治大学和泉キャンパス図書館ホール(1階)

東京都杉並区永福1-9-1 / 京王線 / 井の頭線 明大前駅 下車 改札口を出て徒歩約5分
※お車でのご来校はご遠慮ください



講演

小貫 和洋 (元富岡町図書館長)

福島第一原発事故により避難を余儀なくされ、現在は東京で避難生活を送る

コメント

鈴木 達治郎 (長崎大学核兵器廃絶研究センター長) ※ライブストリーミング出演

2009年から2013年まで内閣府原子力委員会委員長代理を務め、福島事故時に原子力行政に携わる

司会 / 解説

勝田 忠広 (明治大学法学部、明治大学市民社会と科学技術政策研究所代表)

原子力問題の研究を続けており、小貫氏の一時帰宅に同行し記録を行う

コーディネーター：勝田 忠広 (明治大学法学部、市民社会と科学技術政策研究所) お問い合わせ：polaris@meiji.ac.jp

日本学術振興会 科学研究費助成事業 15K00665